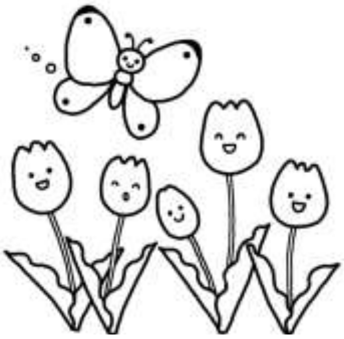


お釈迦様のお誕生を祝う
お花まつり

百花繚乱、まさに天下の春を迎え
目も耳も口も鼻も、
季節が大きく変わったことに喜んでいるようです。
皆様、お変わりありませんか。

春が来た　春が来た　どこに来た　山に来た　里の来た　野にも来た。
花が咲く　花が咲く　どこに咲く　山に咲く　里に咲く　野にも咲く。
鳥が鳴く　鳥が鳴く　どこで鳴く　山で鳴く　里で鳴く　野でも鳴く。
この「春が来た」という曲は、どなたでも口ずさんだことのある懐かしい童謡です。

「春が来た」「春になった」といいますが、「春」を見た人はいるでしょうか。

「春」には色も、形もありません。
「春」を直接、見ることはできません。
それでは春は来なかったのかといえばそうではありません。

「よく見れば　なずな花咲く　垣根かな」（松尾芭蕉）
「どこ？どこ？」と探し回らなくても、
自分のいるところを「よく見れば」春は見つかると
芭蕉は教えてくれています。

さて、花々が咲き誇り　生き物が喜びにあふれる春、
お釈迦様はお誕生されました。
そのお釈迦様の教えは
「自分の外に仏を求めてはいけない。仏は常に自分の中にある」
というシンプルなものでした。

「花が咲く　いのち尽くして　花が咲く」
場所も選ばず、時が来れば咲く花。
それはすなわち私たち一人ひとりの中にいる仏様の姿です。
姿や形が見えなくとも、心の眼で「よく見れば」
輝かしい命いっぱい躍動している仏様を感じることができます。

あなたの心にも　私の心にも仏様がいるのであれば、
あなたの仏様と私の仏様のどちらが尊いかなど、比較すること自体無意味です。
これを示すのに、一休禅師は持っていたおまんじゅうを２つに割って
「どっちのまんじゅうがおいしいのか？」と
得意のトンチで教えてくれています。

禅語に「一花開天下春」とあります。
文字通り、一輪の花が開いて、天下の春を知るということですが、
「一花」つまり心の中の仏様に気付いた途端、
自分が実は　心の平安（春）のただ中にいたことを知る
そんな喜びに満ちた悟りの境地が読み込まれています。

お釈迦様のご誕生された春、今一度お釈迦様の教えを心に刻みつつ
気持ちよく新年度スタートさせたいものです。

大智寺だより

平成30年卯月
Vol.94

発行所
大智寺
岐阜市山県北野
668－1
電話:058-229-1532
≪Mail≫
hybsr245@ybb.ne.jp
≪ホームページ≫
大智寺　検索
http://www.daichiji.com

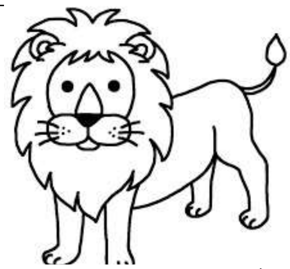
当紙は、大智寺本堂及び墓地の水小屋にてご自由にお取りいただけます。
又、当寺ホームページにて過去すべての紙面をご覧いただけます。ご活用ください。

３月号発行部数
200部

ご愛読
ありがとうございます

美濃西国三十三観音霊場
４月の総開帳　中止のお知らせ

様々な方面の方々からお問合せをいただいておりますが、
再度確認のためお知らせします。
美濃西国三十三観音霊場会では、４年に１度の総開帳を４月に実施しておりましたが
１０月の大智寺だよりでお伝えしておりますように、急遽中止が確定しました。
皆様には大変ご迷惑をおかけし、申し訳ありません。
尚、今後の総開帳開催予定については未定です。
どうぞご理解いただけますよう、お願い致します。



弘法様のお参り

お彼岸間近の３月７日、
梅がきれいに咲き始める中、里４号の方々が
弘法様のお参りをしてくださいました。
朝方は少し冷えましたが、朝８時半から弘法堂のお掃除をし
きれいなお花をたくさんお供えくださいました。
９時から和尚様と一緒に読経をし、お参りしました。
お参りが終わる頃には、春らしくのどかな陽気となり
皆様の温かい笑顔で始まる気持ちのよい朝でした。
お蔭様でお彼岸中も、弘法様参りの方々に気持ちよくお参りいただくことができました。
お忙しい中、ありがとうございました。

～　他家の法要に出る機会の少ない奥様のため　若い世代のために　～
（実際にお寺にご相談いただいたものから抜粋）

お寺のこと、仏壇のこと、法要のことetc
わからないこと　質問帳　㊱

「本堂にある『お寺で婚活』ってパンフレット、あれってどういうもんなの？」

結婚したいけれど、なかなかいい相手が見つからない・・・
そんな方々に対してお力になれればと、臨済宗の若手のお坊さんがボランティアで運営しているのが
このパンフレットの「吉縁会（きちえんかい）」です。

お寺で費用をあまりかけずに、安心してご縁の輪を広げていただくために、
この会では、日本のあちこちでイベントを開催しています。
お寺が仲介する上、入会費や年会費、成婚費など一切かからないことから、
会員登録される方が年々増えています。
また、イベントは主にお寺で仏教文化を体験していただきながら行われることも特徴です。

この「吉縁会」は、静岡県浜松で発足しました。
それから８年たち、東京、名古屋、岐阜、仙台、大分など、
各地で定員に対して何倍もお申込みをいただく人気のイベント企画となりました。
今までになんと、360名の結婚報告をいただいているそうです。

この４月には、大智寺を会場に「お寺で婚活・吉縁会」が執り行われることとなりました！
若手のお坊さん達が司会やサポーターとして、がんばって企画します。
お寺から新しいご縁が生まれることを切に祈っています。

～　日常を豊かに『発菩提心空拳章（通称：菩提和讃）』　～

お経のやさしい和訳（和讃）から
毎日の生活を　心豊かに

大智寺檀信徒日課経典
31ページより
㊷

「　親属他人（しんぞくたにん）も夫々（それぞれ）に　長幼尊卑（ちょうようそんぴ）の義（ぎ）を守（まも）り　」

さてここで、儒教的教えが出てきました。
紀元前の中国に興った儒教は、穏やかな社会を作るために人々はどうしたらよいのか説いたものです。

「仁義礼智信」の「五常」とともに儒教倫理説の根本となる「五倫」は、孟子によって提唱されました。
「五倫」の教えを紐解いてみましょう。

父と子の間は親愛の情で結ばれなくてはならない。（父子の親）

君主と臣下は互いに慈しみの心で結ばれなくてはならない。（君臣の義）

夫には夫の役割、妻には妻の役割があり、それぞれ異なる。（夫婦の別）

年少者は年長者を敬い、したがわなければならない。（長幼の序）

友はたがいに信頼の情で結ばれなくてはならない。（朋友の信）

仏教が日本に渡る際、儒教の影響を受けたと言われますが、こんなところにもその片鱗が見られます。

今月のひとこと

仰ぎ見れば梅が終わりを告げ、桃そして桜へと色が変わろうとしています。花粉症の辛いこの時期、皆様いかがお過ごしでしょうか。
先月は久しぶりに風邪を引き、声が出なくなる不始末、お電話いただいた方々には申し訳ない限りでした。さぞ聞き取りにくかったことと思います。声が出ないと、数歩先を行く人にも、いちいち肩をたたかないと振り向いてもらえません。この数日はずいぶん人を追っかけていたように思います（笑）

み仏の　御名を唱ふるわが声は
　わが声ながら尊かりけり
ともすれば　人の飢えいうこの舌も
　仏の御名を呼ぶときのあり

これは京都女子大学の前身、顕道女学院の創始者　甲斐和里子氏の詩「草かご」の一部です。
私達には、みんな等しく仏様と同じ心（仏心）があります。たとえお経を読まず、仏様の御名を呼ばずとも、いい湯加減のお風呂に入れば「あー気持ちいい」といい、転んだ人をみて「大丈夫？」といい、素直に頭を下げて「ありがとう」という、そんな仏心から出てくる素直な言葉は声にするだけで尊いものです。
とはいうものの、ようやく風邪が治って声が出るようになると、相変わらずこの口はくだらないことをよくしゃべります（笑）

～　シリーズ　いますぐできる精進の味　～

♪　お寺のぶきっちょさんでも簡単に作れた　ヘルシーなお味　♪

サクサクおいしい　手作りグラノーラ

① 生おから１００ｇ、全粒粉２５ｇ、オートミール２５ｇ、
液状にしたバター２５ｇ、はちみつ２５ｇを大き目のボウルに入れて
全体をよく混ぜ合わせる。
② フライパンに入れて、少し焦げ目ができるまで弱火で炒る。
③ 好みでレーズンや刻んだナッツ類を入れて、冷ます。

ボウルに混ぜ合わせたものをフライパンに入れる時には、
ぼそぼそですが気にせずに入れます。完全に水分を飛ばすと、カリカリと香ばしいお味になります。
ヘルシーなので、たっぷりヨーグルトに入れてザクザク食べます。

♪　月に一度はお寺まいり　♪

初心者　大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月　第四日曜日
定例写経会

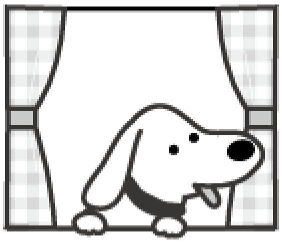
今月の日程

4月22日（日）
（朝8時～9時）

一回500円
（内300円は義援金）
要申込

３月写経会　備忘録

椿が次々に咲き出した暖かな日曜日。今回はお花見にきた姉妹が途中でお腹が痛くなってしまう「やかんなめ」という落語を楽しみました。やかんをなめればお腹痛が治ると信じている姉妹とお侍さんのやりとりが面白い落語です。「野干鳴」という言葉と響きが似ていますね、間違った教えやゲン担ぎに注意注意！（笑）



お釈迦様が生きていた頃　あんな人、こんな人

第十三話　「耕田バラモンさん」

ちょうど稲の種まきの季節。
一人の僧が托鉢のため大きな屋敷の前に立っています。
お昼時の忙しい時間で、バラモンさんは女たちに昼食の分配指図をしているところでした。
「なんだね、さっきから突っ立ってるが、飯がほしいのかね」
この村の大地主で500人もの農民を支配しているバラモンさんが言いました。
「お坊さんよ、君も飯が欲しいならワシらと同じように田を耕し米を収穫してはどうだね」

「はい、私も田を耕し、種をまき、果実を収穫して生活しています」
「何を言っているんだ、君は手に鉢をもって立っているだけじゃないか」
「いいえ、私のは信心が種です。修行は雨です。
正しい言葉を使い、正しい心で悪業を摘み取るのが私の田の草取りです。
そして不動の果実を収穫するのです。」
「へえ、なるほど、耕田とは心を耕し、揺らぐことのない安心という果実を収穫することなのか。」

そういってバラモンさんはお坊さんの鉢いっぱいに山盛りのご飯を供養しました。
春風渡る田の中、彼方へ過ぎ去るお坊さんの背中を見ながら、バラモンさんは
「ひょっとしたら、あのお坊さんがブッダなのかもしれんな」とつぶやきました。

ご自宅で　お寺で　市営斎場で　営む　家族葬

ご家族・ご親族のみの家族葬をお考えの場合、
ご自宅や市営斎場を会場に営むことができます。

また大智寺を会場にお使い頂くこともできますが、
その場合、指定の葬儀社をお寺でご案内致します。
必ず前もってご相談ください。

家族葬をご検討される場合は、
葬儀社のこと、葬儀会場のことなど含めて
まずはお寺までご相談ください。

完全個別永代供養墓

１区画：３８万円～
（墓石代金含む）

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りする方がいなくても、お寺がご供養させて頂くお墓です。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦・ご家族一緒に
ひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。
永代にわたり、他の方のお骨と混じらないことから
「完全個別永代供養墓」といいます。
詳しくは、ご見学を含めてご説明しますので、
ご予約の上　ご来山ください。